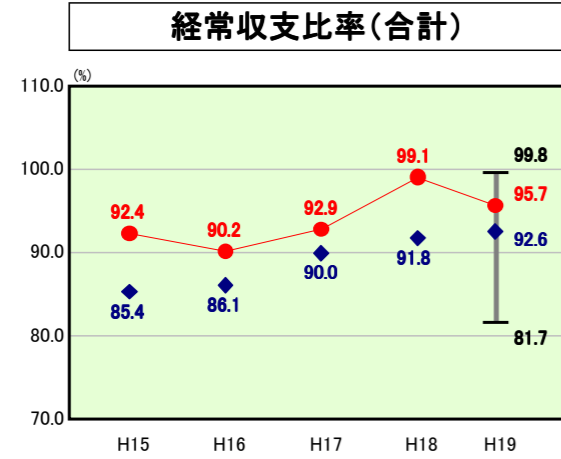


歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

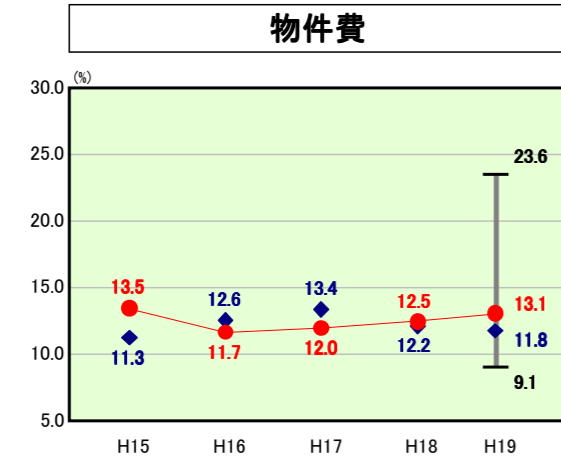
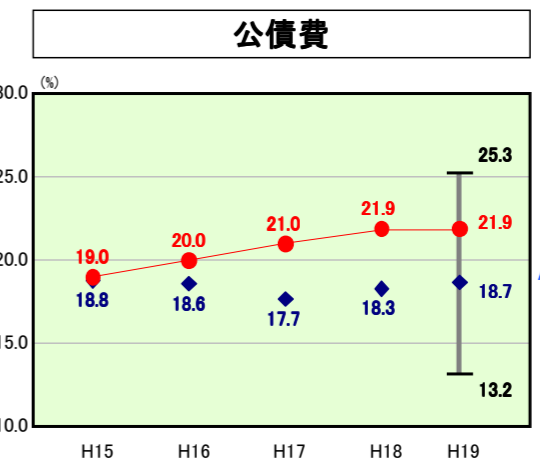
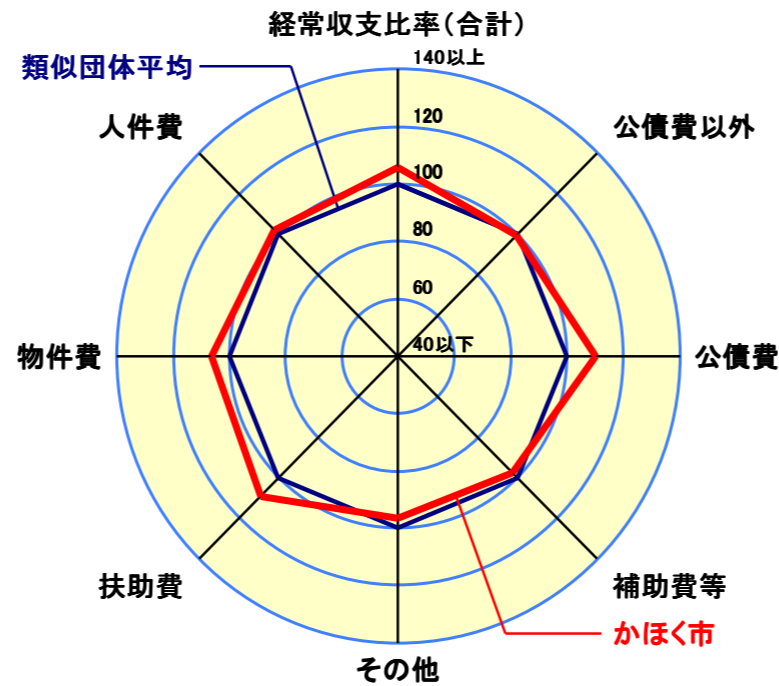
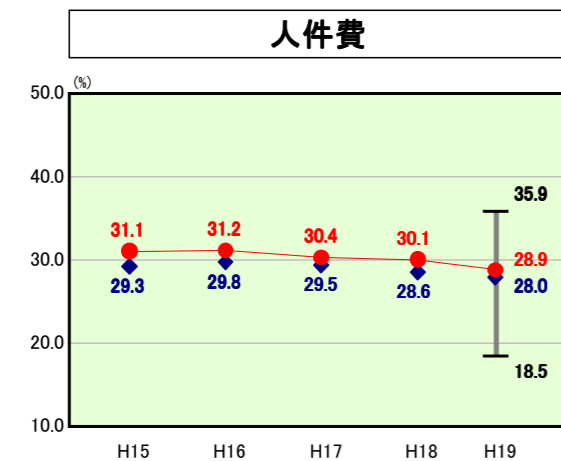
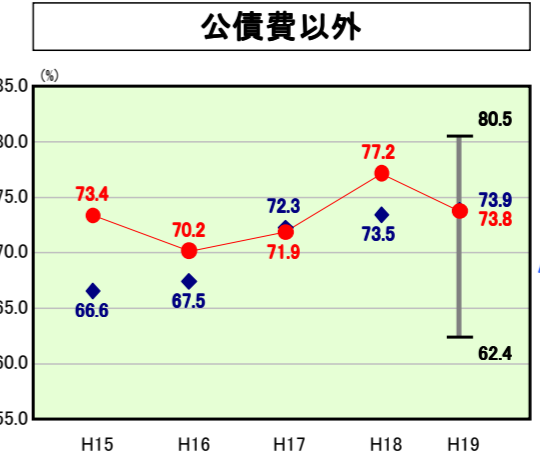
石川県 かほく市

経常収支比率の分析



当該団体値 ●
 類似団体内平均値 ◆
 類似団体内最大値 ▮
 類似団体内最小値 ▾

人口	35,255人(H20.3.31現在)
面積	64.76 km ²
歳入総額	14,479,085千円
歳出総額	14,142,383千円
実質収支	317,838千円



※1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
 ※2 当該団体の八角形が平均値の八角形より内側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
 ※3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

■ 全般的事項 ■
 平成16年3月に合併した本市において、平成15年度と平成16年度において市になったことによるスケールメリットが現れている。物件費・補助費については、旧3町体制から一本化することによる効率化として約2～3%減少している。一方、扶助費では、市制による生活保護費等の影響で4.3%の増となっている。

■ 個別事項 ■
 (人件費)
 市町村合併により、旧町職員をすべて引き継いだことにより、他の類似団体よりも多くなっている。一方で、定員適正化計画により、今後は、平成17年10月制定の行政改革実施計画に基づき、新規採用者を退職者の1/3程度とするなど、5年間で6%削減する方針である。今後は、定員適正化計画の見直しもあわせ更なる人件費削減に努める方針である。

(公債費)
 平成20年度から、合併後の均衡発展及び市民の融和を目指した合併事業の元金償還が始まり、平成21年度には元利償還金がピークを迎える。よって、繰上償還などの活用に公債費の縮減を図る。

(普通建設事業費)
 平成16年度から、市町村合併による基盤整備事業に着手している。とりわけ、平成17年度の人口一人当たり決算額は、類似団体と比較しても非常に大きくなっているが、平成16～17年度に実施した中学校建設(宇ノ気、河北台)の影響で増加したものである。(平成17年度は前年度の繰越事業費とあわせて中学校建設事業費が約56億9千万円)。今後は、選択と集中により真に必要な事業に重点を絞って事業展開していく。

(補助費)
 厳しい財政事情を背景に補助対象経費の見直しやサンセット方式による縮減などを実施している。一方、一部事務組合の元利償還金の増加が見込まれ、一層の歳出削減を実施する。

(物件費)
 毎年経常経費シーリングなどの実施により経費の抑制を図っているが、電算や施設の保守管理費用の増加により類似団体と比較して1.3ポイント高い値となっています。今後は、施設の統廃合によりスケールメリットを最大限活用しながら対応していきたい。

